

1 自己評価及び外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のもので)

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3090100078		
法人名	有限会社 プログレス		
事業所名	グループホームあい楠見	【ユニット名:ひまわり】	
所在地	和歌山市楠見中197-8		
自己評価作成日	平成30年1月10日	評価結果市町村受理日	平成30年3月23日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/30/index.php?action_kouhyou_detail_2016_021_kani=true&JigyosyoCd=3090100078-00&PrefCd=30&VersionCd=021
----------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般社団法人和歌山県認知症支援協会
所在地	和歌山市四番丁52 ハラダビル2F
訪問調査日	平成30年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホームあい楠見は地域密着型の複合施設で他のサービスを利用して頂いている方とのコミュニケーションや合同での催しで入所者様の生活に楽しみを持ち、活性化されることで身体的にも精神的にも元気に生活が送れるよう支援しています。又、グループと医療機関が連携することで健康面の不安にも対応しています。毎日職員と入所者様がおやつを一緒に作る事が定着しており楽しみの一つとなっています。又、ユニットごとにそれぞれの特色もありますが合同でレクリエーションをすることで交流の場が広がったり、外出の機会も多くなっています。どちらのユニットも落ち着いた雰囲気の中で毎日過ごして頂けるように心掛けています。今後も地域の方が気軽にきて頂けるような地域に密着した施設作りに取り組んでいきたいと思っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

建物の2階に2つのユニットがあり、1階にデイサービスと小規模多機能施設が併設されているので合同の行事も多い。併設のサービスを経由して入居した人には馴染みの利用者との関係の継続にも配慮している。また、系列法人の総合病院との連携で、緊急時にも常時医療を受けられる環境となっている。各ユニットごとに、利用者とも共有できる内容の理念を掲げて利用者が生きいきと生活できるよう取り組んでおり、午後のリビングではスタッフと一緒に毎日のおやつ作りを楽しむ利用者の様子が見られる。また週末のドライブの行き先も皆で話し合っている。趣味や健康維持のため、利用者一人ひとりが選択し楽しむことができる書道教室や体操教室、音楽療法なども行われている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

(※外部評価はユニット別ではなく事業所全体のものです)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	笑顔で楽しく過ごせるようにと理念を作ったり、各部署に掲示し意識付けることで共有し実践につなげている。	「地域とともに歩む私らしい生活」・「楽しい毎日を笑顔で過ごす暮らし」と、各ユニットで利用者とも共有できる理念を作成しフロアに掲示している。新任職員に趣旨を説明し職員全員が把握し実践できるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入り回覧板を見たり、地域の祭りの参加や自治会の溝掃除に参加することで少しでも地域の一員として交流できる機会を持っている。	地域との交流を大切に考え、自治会に加入して職員が溝掃除に参加するなど、地域に貢献している。小学校の行事には希望する入居者と一緒に出掛け、ホームの夏祭りには地域住民の参加もある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のボランティアの方に来て頂きふれあいの中で少しずつ理解し知識が深められるように努めている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議にて入所者様の近況報告等を行い意見を伺うことでサービス向上に取り組んでいる。	2ヶ月に一度、家族・包括支援センター職員等が出席し、具体的な近況報告が行われている。全職員で取り組んでいる事故防止のための「ヒヤリハット報告」についても出席者に意見を求めて改善策を検討している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入所者様に新たな課題が発生した際には市町村担当者に相談しサービスの検討をしている。	市の介護保険課・指導課に電話だけでなく出向くこともあり相談や報告を行っている。事故報告は事の大小に係わらず必ず報告をすることで指導を仰ぎ、予防対策に積極的に取り組んでいる。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を設置し定期的な会議を開催し、スタッフ会議で発表することにより職員全体に周知できるようにしている。又、内部研修での勉強会を実施しているが、全ての職員が理解できているとはいえず、新職員への指導が必要。	担当する委員を配置し、法人内の身体拘束委員会で取り組みの発表や勉強会を実施している。外部研修等にも参加し、その内容をスタッフ会議で報告している。新任職員への伝達や指導の重要性を認識して取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	内部研修にて勉強会を開き、職員に周知徹底し防止に努めている。又、働く職場環境の整備や職員のストレス等虐待が起こりうる原因を軽減している。		

【事業所名】 グループホームあい楠見 ユニット名:ひまわり

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部研修に毎年参加し、参加した職員が内部研修の勉強会にて発表し理解を深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所者様や家人様に疑問点がないか確認しながら説明し、疑問点があれば更に説明を行って理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の際や家人様来所の際に状況を伝え、家人様の意見や要望を聴き運営に反映できるようにしている。又、サービス向上委員会を設置し利用者や家族様からの要望等について話し合っている。	家族の来所時に担当職員が声をかけたり、電話で近況の報告を行い要望等の聞き取りをしている。事後の状況も経過報告とともにやっている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフ会議や部署会議にて職員の意見を聴き、責任者会議にて反映できるようにしている。	管理者や先輩から新任職員に困り事がないか声をかけるなどの配慮があり、各職員が意見を出しやすい雰囲気職場となっている。職員が気づいたことは共有ノートに記入して会議に出し、意見や提案を検討している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	スタッフの意見に普段より耳を傾け、施設長・管理者が参加する責任者会議にて話し合い、向上心ややりがいを持って働けるよう、環境や条件を整えるように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に行っている内部研修だけでなく外部研修にも参加し、知識や技術向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の勉強会や交流会に参加し、情報交換することでサービスの向上に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所時より担当職員を決め本人様とコミュニケーションを図っていく中で要望や不安等に気付き生活の中で信頼関係を築いていけるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時に家人様との話し合いの時間を持ち情報を頂き、意見や要望等に耳を傾け安心した生活が送れるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入所者様の今までの生活を傾聴し必要な生活の支援の把握に努めている。又、アセスメントを行い他のサービスが必要な時は家人様と相談しながら進めていく。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の中で役割を持って頂き、出来ることは自己にてして頂くように促し、一緒に考え一緒にすることでより良い関係を築いていけるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家人様がいつでも来所して頂けるように信頼関係を築き、本人様に変化があればすぐに連絡し報告している。又、来所された際は日頃の様子を伝え、カンファレンスの開催で都度家人様の要望や意見を聴き一緒に考えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	昔の思い出話等から懐かしい場所にドライブに外出する機会をもつよう努めている。	週末のドライブで、利用者が入居前によく目にしていた馴染みの風景が見られる場所へ行く機会を作っている。加太の淡島神社や和歌浦等に出かけており、街並みの風景が変化していることが話題になっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	朝の体操やレクリエーションに楽しく参加して頂けるように声掛けし、利用者様同士も会話や関わりをもてるように配慮していく。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	転居や退居された入所者様に対しても、情報提供し支援していくように努めている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員がコミュニケーションから得た情報を部署会議で話し合うことで共有し意向の把握に努めている。	本人の言動から思いを汲み取るよう努めている。個別の伝達ノートに記録することで状況を把握し、朝礼で共有するとともに会議で検討して本人の意向の実現に取り組んでいる。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様や家人様からこれまでの生活歴を聴き取ることで馴染みの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	記録や伝達に残し、職員間で情報の共有に努めている。又、部署会議にて話し合い把握していく。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	部署会議にて話し合い、定期的にカンファレンスを開催し家人様の意見や希望も聴き一緒に検討している。定期的なモニタリングをすることで新たなニーズが発生していないか等検討している。	利用者の担当職員が中心になり本人や家族の希望を聞き、定期的に会議で検討している。利用者の日々の状態が丁寧に記録され全職員が情報共有に努めているが、計画に十分反映できていないところもある。	細かく状態把握できている点を計画に反映できるよう、本人と家族や職員が、より達成感を得られるよう、短期目標を設定して実現していけることを期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護記録に日常の行動や言動を記録し、職員間で情報共有しながら計画書の見直し時には参考にできるように記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	日々コミュニケーションをとるなかで柔軟に対応できるよう取り組んでいる。又、新たなニーズが現れた時にはそのニーズへの実現に向けたカンファレンスの開催をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域のボランティアの方の協力を頂き、色々な取り組みを実施することで楽しみのある生活が送れるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医師、又はかかりつけ医と連携をとり必要に応じてサマリーの作成をすることで適切な医療を受けられるように支援し、本人様の希望も大切にしている。	系列法人の医療機関と連携を取り、受診時の待ち時間を短縮し、状態に応じて往診も行っている。希望により他院への受診も可能である。歯科は提携医が定期的に往診している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	入所者様の体調管理を行い、体調変化や異変に気付いたときには看護師に相談することで適切な診断で受診等受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には自施設のサマリーや基本情報を提供し情報交換や相談に努めている。又、医療連携室や病棟看護師との情報交換や相談に努め、日常からコミュニケーションを図り関係作りをしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時には重度化への対応、終末期における対応の指針の説明をし同意を頂いている。又、終末期となった場合はカンファレンスをこまめに開催し家人様の要望に近づけるようなチームケアに取り組んでいる。	契約時に看取りに関する説明を行い体制も整えているが、実際には終末期になると系列法人の医療機関への入院を希望するケースが多く、看取りの経験は未だない。医療機関との連携は密に行われ適宜の対応がなされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時に備え、勉強会を実施し実践的なことも取り入れることで対応を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時のマニュアルにグループ施設との連携の仕方や職員の緊急連絡網を作成し、自施設にて訓練も定期的に行っている。	訓練は年2回行い消防署に報告している。緊急時には隣接する病院と施設にも協力を求める体制を整えている。訓練の参加は職員のみになっている。	できるだけ利用者も訓練に加わって実施することで、より安全な避難を検討して災害に備えることを期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	一人ひとりがその人らしく過ごせるようにその人ができる言葉かけをするよう努めている。	一人ひとりの尊重を損なうことがないよう配慮し、プライバシーにかかわることは皆がいる場所では声かけしないことや、小声で声かけするよう心掛けている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様に都度何をしたいか尋ねたり声掛けを行う。又、表情や言動からもくみ取るよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ゆっくりと過ごして頂けるようにその人のペースに合わせて支援していく。入所者様一人ひとりの希望を聞き出せるように問いかけを行っている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	季節に応じて家人様に衣服を用意して頂き、自己決定して頂けるように努めている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	おやつ作りには出来ることは参加して頂けるよう声掛け行う。又、イベント時にも材料を切って頂いたりと一緒にいる。	手作りの足置き台を使用して安定した姿で食事を楽しめる工夫が見られる。ユニット内で食事の調理は行われていないが、おやつ作りは、職員と共に利用者が楽しんで行えるよう取り組んでいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日食事量や水分量をチェックし摂取状態を把握している。又、毎月の体重測定で栄養状態を確認しながら食事形態の見直しも行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアをすることで異常などないか確認し、必要に応じたケアを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所者様個々に排泄チェックを実施し、排泄パターンを把握している。又、表情や行動を観察しながら声掛けを行っている。	季節による体調の変化を考慮した排泄介助を心掛け、できる限り自立した排泄の支援を実践している。日々の記録により排泄パターンを把握し、タイミングを合わせて声かけすることにより、失敗する回数が減っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	日頃から体操を行ったり水分摂取量をチェックしている。又、便秘時には看護師と相談し、お腹の音を聞いたり緩下剤を適宜使用している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴の曜日を決めているが、本人様の様子を見て中止することもある。臨機応変に対応し入浴して頂けるよう支援している。	午前か午後いずれの希望の時間帯に週に2～3回入浴できるよう取り組んでいる。利用者の状況に応じて回数を多くするなど、柔軟に支援している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入所者様の今までの暮らしを把握し、明かりを調節したり、ゆっくり安眠できるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明書は保管し、職員も目を通すようにしている。又、受診時に薬の変更があれば、状態の変化に気を配れるように看護師と連携をとっている。服薬後に変化があれば記録にも残して情報共有できるようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	イベントやドライブに出かけ気分転換して頂いたり、出来ることは自身にてして頂けるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	週末は交代でドライブに出かけたり、普段は行けないような場所でもイベントで計画し出かけられるよう努めている。	週末の土曜日・日曜日には、利用者の馴染みのある場所など、皆で行き先を話し合っ決めてドライブを行っている。おやつ作りの買い物も行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入所者様自身でお金を所持している方はほとんどなく必要な物は家人様に持って来て頂くことが多い。本人様が持たれ、買い物を希望された時は一緒に買いに行く等支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家人様からの手紙は必ず入所者様に手渡ししている。又、本人様への電話があればやりとりができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は毎日清掃し、室温管理や光等調節しています。リビングの壁には毎月季節の飾りつけをし、季節感を出すように心掛けています。	共用部分であるリビングには、利用者が制作した作品を掲示して、それぞれのユニットごとの個性が感じられる空間となっている。行事で使用する用具が共用空間を狭くしており、置き場所を屋上に作る予定となっている。	屋上に物置を設置することで棚が撤去されて廊下が広く使用でき、景観的にも改善されることが期待できる。行事で使用する備品を今後も大切に保管され継続して活用することを希望したい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入所者様本人の希望にそってレクリエーションの参加・不参加を決めて頂く。不参加の場合もどのように過ごされるか本人に決めて頂く。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅ですべての物を持って来て頂いたり、写真を貼ったり家人様より情報を聴き快適に過ごせるような空間作りをしている。	居室にそれぞれの利用者が自宅ですべての馴染みの物が置かれている。提供されているベットと筆筒の配置も画一的ではなく、本人が使い易いようにその部屋ごとに工夫されている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入所者様の居室や共用の空間のトイレや浴室等入口に表札やプレートをつけることで、その場所がわかるように工夫している。		